

2017年制定・2018年中学校男子適用規則 (U-15)

第1章 演技の採点

第1条 原則

1. 次に示すもの以外は、(公財)日本体操協会制定2017年版体操競技男子採点規則を適用とする。

第2条 決定点

1. 決定点の構成

(1) 決定点は、次のような配点により構成される。  
 演技構成 (Dスコア: 6技 + 終末技 + 技のグループ)  
 + 実 施 (Eスコア: 10.00 - 減点) + 加点 (最大0.50)  
 - N D (ライン減点、タイム減点、技数不足等)  
 決 定 点

2. 演技構成、および技のグループと特別要求(種目特有の要求)

(1) ゆか、あん馬、つり輪、平行棒、鉄棒の演技は次の技数を要求する。

a) Dスコア 7技(6技+終末技)  
 i) 技は難度により、次の得点(難度点)が与えられる。  
 A: 0.10 B: 0.20 C: 0.30 D以上: 0.40

(2) 技のグループ、および特別要求(種目特有の要求)

a) 跳馬を除く5種目において次のグループを要求する。  
 i) 終末技を除く3つの技のグループ(1グループにつき0.50。0.50×3グループ=1.50)  
 ii) 終末技の技のグループ(B難度以上0.50、A難度0.30)

b) 技のグループは次の通りとする。

- ゆか)  
 I 跳躍技以外の技  
 II 前方系の跳躍技  
 III 後方系の跳躍技  
 IV 終末技  
 あん馬)  
 I 片足振動・交差技  
 II 旋回・旋回倒立・転向技  
 III 旋回移動・転向移動技  
 IV 終末技  
 つり輪)  
 I 振動・振動倒立技  
 II 力技・静止技  
 III 振動からの力静止技(※)  
 IV 終末技

- 平行棒)  
 I 両棒での支持技  
 II 腕支持振動技  
 III 長懸垂・逆懸垂振動技  
 IV 終末技

- 鉄棒)  
 I 懸垂振動技  
 II 手放し技(※)  
 III バーに近い・アドラー系の技  
 IV 終末技

※次の技のグループに関しては、要求を満たさなくても0.30を与える。要求を満たした場合は0.50を与える。

- ・つり輪III振動からの(力)静止技
- ・鉄棒II手放し技

c) 特別要求(種目特有の要求)

i) ゆか、つり輪において次の技を特別要求(種目特有の要求)として演技構成に入れること。要求を満たさない場合は各々0.30のNDとする。なお、7技に入れる必要はない。

- ゆか・倒立静止
- ゆか・前後(左右)開脚座
- つり輪・倒立静止

(3) 難度認定の特例

a) a難度(スモール・エー)

i) 体操競技の健全な発展と評価、そして普及の観点から次の技を「a難度」とし0.10の難度点を与える。ただし、技のグループは満たせない。主なa難度は第6条2の通り。

b) a難度を除き、難度表に掲載されていない次の技を特例として難度を認定する。(技のグループと技数を満たす)

つり輪	I	屈腕での車輪倒立静止(前方・後方)	C難度(実施減点で対応)
	IV	前方かかえ込み宙返り下り	A難度
IV		後方かかえ込み宙返り下り	A難度
	平行棒	I	前振りひねり倒立45°未満
IV		前方かかえ込み宙返り下り	A難度
	IV	後方かかえ込み宙返り下り	A難度
鉄棒		III	足裏支持回転倒立
	IV	前方かかえ込み宙返り下り	A難度
IV		後方かかえ込み宙返り下り	A難度

(4) 跳馬の価値点(Dスコア)

- a) 跳馬の価値点(Dスコア)は、原則として日本体操協会採点規則2017年版・跳馬価値点一覧表(1)の技を0.40高く設定する。  
 b) 跳馬の価値点(Dスコア)は、4.0を上限とする。  
 c) 切り返し系の技(開脚とび、閉脚とびなど)の難度点(Dスコア)は1.0とする。  
 d) 台上前転は前転とびと同じ難度点(Dスコア)とする。ただし、姿勢的な減点の他、器具にぶつかるなどの大過失を伴う。  
 e) 跳馬の価値点(Dスコア)は、別紙「中学校男子適用規則(U-15)跳馬価値点一覧表」にて確認すること。

### 第3条 実施

#### 1. 実施

(1) 実施は10.00から実施減点を差し引いた得点をEスコアとする。

#### 2. 実施減点

(1) 正しい演技からの逸脱は、すべて実施欠点であり、審判員によって相応の減点がなされる。小、中、大欠点の大きさは、正しい実施からの逸脱の程度により判定される。小、中、大欠点等の減点はFIGルールでの減点に準ずる。ただし落下のみ0.50とする。

#### 3. 減点に関する特例

(1) 鉄棒において、振れ戻りは減点の対象としない。

例：後ろ振り上がりや逆手から順手の両手持ち換え

(2) 飛距離、高さ等に対する減点は体格などを考慮し選手が不利にならないように採点する。また、競技会のレベルも考慮し審判員が判断する。

#### 4. 加点

(1) 加点は、E審判が採点後のEスコアに得点(該当する加点)をプラスする。

(2) 着地を止めた場合は安定した着地に対して、0.10の加点をする。(a難度を除く)

(3) 美しさ、雄大さなどに最大0.40の加点を与えることができる。なお、この加点は必ずしも技に対して与えるものではない。ゆかで直立した時の姿勢や意識されたつま先など大会の主旨、レベル等を考慮し審判員が各自で判断する。ただし、Eスコアに加点を与えて10点を超えることはできない。

### 第4条 ND

#### 1. ニュートラル・ディダクション

(1) あん馬において、馬体の3部分を使用しなかった場合のNDは適用しない。

(2) ゆかにおいて、2回宙返りを実施しなくてもNDの対象にはならない。

(3) ゆかにおいて、4つのコーナーに達しなくとも2つの対角線上(2ライン)での実施が認められればNDの対象にはならない。2ラインの使用がなければ減点対象とする。

(4) つり輪の振動倒立静止の要求はしない。よって演技構成になくともNDの対象にはならない。

(5) 短い演技(技数不足)に対するNDは、体操競技の普及、および教育的配慮の観点から次の通りとする。

5技以上	0.00
1～4技	3.00

### 第5条 禁止技

1. 以下の禁止技を実施した場合は、その演技を0点とする。

(1) 難度表に記載されているFIGジュニアルールの禁止技

- ・ つり輪のグチョギー系の技
- ・ 平行棒の宙返りから腕支持となる技

(2) 前方に2回以上の宙返りをする技

※例外として、ゆかの後方ひねり前方かかえ込み(屈身・伸身)2回宙返りひねりは後方かかえ込み(屈身・伸身)2回宙返り1回ひねりと同一枠のため、禁止技から除外する。

### 第6条 その他

1. 事故防止と選手の精神的援助のためつり輪、跳馬、平行棒、鉄棒において2名までの補助者が立つことが許される。

2. 主なa難度を以下に示す。示された技以外は大会の主旨、レベル等を考慮して審判員が各自で判断する。

ゆか)

- ・ 前転技群(前転、開脚前転、伸膝前転、倒立前転)1技まで
- ・ 後転技群(後転、開脚後転、伸膝後転、後転倒立)1技まで
- ・ 側方倒立回転
- ・ ロンダート

あん馬)

- ・ 四つ足(左入れ～右入れ～左抜き～右抜き)：逆も可
- ・ 2つ目以降の横向き旋回(両把手、馬端、逆馬端でそれぞれ1つの技)
- ・ 2つ目の正交差、2つ目の逆交差(左右それぞれ1つの技)
- ・ (馬端中向き)上向き下り

つり輪)

- ・ 肩倒立

平行棒)

- ・ 開脚前挙支持
- ・ 腕支持後ろ振り上がり支持
- ・ 前振り後方かかえ込み宙返り下り(棒間)
- ・ 懸垂前振り後方かかえ込み宙返り下り(棒間)

鉄棒)

- ・ け上がり支持
- ・ 懸垂前振りひねり(水平以下)
- ・ 懸垂前振り逆上がり
- ・ 後ろ振り上がり支持
- ・ 両手を同時に持ち換える技
- ・ 前方支持回転、後方支持回転
- ・ 後方足裏支持回転振り出し下り

以上

全国中学校選手権大会適用 競技規則・採点規則

(一部抜粋)

(1) 規定演技

男女共に規定演技を実施しない

(2) 自由演技

男子：(公財)日本体操協会制定2017年版男子採点規則・2017年度制定/2018年度版中学校男子適用規則

女子：日本体操協会制定2017年版女子採点規則・変更規則I・女子体操競技情報最新版

(3) その他の適用

○跳馬の着地に着地レーンを適用する。  
色分けでエリアを表示していないマットの場合、ラインにて対応すること。その場合は5cm幅のテープで明確に線を引かなければならない。この線は踏むことは許されるが、踏み越えることを許されない。

○男女ともに跳馬において、スプリング式の踏み切り板を使用する場合、3-3-2 3-1-2を基本とするが、中学生の年代を考慮して2-1-2を認める。

女子の段違い平行棒、平均台の踏み切り板は、コイル式の場合は赤コイル、スプリング式の場合は3-1-2 (2-1-2も可) とする。外した場合、そのままにせず、すぐに戻すこと。

○男女とも0点を取るためには、挙手で演技をする意思を示し、着地の姿勢を見せた場合

に認める(器具に触れても、触れなくても良い。また、跳馬の助走がなくても良い)。

○服装違反は、理由等を考慮し、審判長の判断とする。

○男子の鉄棒の開始で「後ろ振り上がり～ほん転倒立」(規定と同じ開始)を実施も振れ戻り減点の対象にはならない。

○オーダーミスは、最初に間違った選手から-0.2とする。

○服装違反は、理由等を考慮し、審判長の判断とする。